

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572609105		
法人名	有限会社 福寿		
事業所名	グループホーム福寿草		
所在地	秋田県大仙市福田字川原道下55番1		
自己評価作成日	令和3年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今年度の事業所目標は、入居者様一人ひとりの「その人らしさ」を考え必要とするサービスの充実を図るため、個別の計画書も専門職の意見を多く取り入れ作成した。
 ・「ありがとう たった一言 大きな愛」を当事業所のテーマとし入居者様、ご家族様、職員すべてにおいて、心から「ありがとう」の気持ちを言葉にして伝えている。
 ・日々の生活の中で、入居者様一人ひとりが、その方にあった役割を持ち、共同生活の中で喜びを分かち合い生きがいを見出すお手伝いをしている。
 ・コロナ禍ではあったが、10月に行われた「秋まつり」に作品を出展し、演芸発表では入居者のA様が舞台で村田英雄の「花と竜」を歌って好評を博した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のできること、できそうなことの実現のために楽しみ事や力を活かせる場面づくりを行い、自分でできる喜びを感じることができるよう見守り、一緒に行いながら支援しています。日々の関わりから得られる気づきを大切にして支援のポイントとし、アセスメントに活かして実践に繋げており、記録様式を見直して利用者一人ひとりの特性や思いを踏まえた介護計画の作成に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(ことぶき館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎年、職員全員が意見を出し合って決めている。理念を達成するための目標も一緒に事業所内の目につく場所に掲示しており、誰もが意識でき、実践に繋がっているよう共有している。	自分でできる喜びを感じながらこれまでと同様の暮らし方ができるよう目標を設定し、利用者の思いを尊重した支援に繋がっていくために努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度は、新型コロナウイルスの影響により毎年招待を受けていた小学校の発表会の鑑賞が出来なく残念だった。毎年恒例の秋まつりに展示物の参加とステージ発表で入居者様が歌を披露する機会があり、地域の方に多くの応援を頂けた。	コロナ禍にあつて多くの交流事業が中止された中で町の催しに参加することができ、地域との繋がりを実感しています。地域の理美容院も継続して利用できるよう支援しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	行政で施行している「認知症何でも相談所」に登録しており、電話や来訪時、いつでも対応できる体制を整えている。地域の運営推進会議委員には、事業所内の取り組みや認知症の方への支援などを報告し、認知症への理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、今年度は書面協議が殆どで各役員の方にホーム内の日常の様子をホームだよりで報告し、認知症やその他の研修等についても資料を添付し、その資料について意見を頂戴し職員全員で共有しサービスの向上に繋がっている。	現在は書面上の会議となっていますが、ホームの取り組みを詳細な資料と共に報告し、いただいたコメントをサービスの向上に繋げていくことができるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	身寄りが遠方に居り、マイナンバーカードの更新の手続きで相談したり、生活保護の方の受診時の報告や金銭面に関する事など必要に応じて連絡を取りスムーズな対応を心掛けている。今年度は、介護保険事務所の実地指導があり実情や取り組みに対し指導をいただいた。	窓口に出向いたり電話等を通じて相談事項に助言をいただく等、必要に応じて連携し、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針に基づいた研修を毎年6回以上は行っている。身体拘束がもたらす弊害等や見守り支援機器の正しい使用方法等の知識を職員全員が周知し身体拘束ゼロのケアに努めている。	職員は研修等を通じて正しく理解して取り組んでいます。気になる言葉遣いがみられた時は注意を促し、会議でも取り上げて意識できるよう取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について毎年外部研修を経て学ぶ機会を設けていたが、今年は施設内で研修を行い理解を得ている。不適切な言動に対して職員同士、日頃から互いに注意しあえる体制を確立し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在は、制度を必要とする方はいないが身寄りが無く金銭も自身で管理されている方が居られる。研修は毎年行っており権利擁護の制度への理解をより一層深めている。いつでも活用出来るよう意識して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、書面に添って分かりやすく説明をし理解を得て締結している。解約時や改定等も説明を十分に行い同意を得ている。不安や疑問があるときは、納得いただけるように説明する努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、担当を決めご家族様に交換ノートを送付し入居者様のホームでの様子や要望を伝えており、ご家族様からの要望も伺っている。面会時には直接お話しされるご家族様も多いが、入口には、「ご意見箱」を設置し気軽に要望等を伝えられるよう説明している。	家族が訪問しやすい雰囲気をつくっている他、交換ノートを介して信頼関係を築き、意見、要望を伝えたり、相談できるように取り組み、積極的に活用しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の日常生活での気付きや提案、定期的に行う職員会議の時に意見や要望を聞き、月毎の管理会議時に報告している。	職員の意見は法人内の会議で伝わる体制が整っている他、日常的に会話の機会があり、ユニット間の職員の連携も図られ、環境整備等、職員の提案が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員一人ひとりの目標を把握し、サービスの改善・組織体制の改善に努め、自身のスキルアップや資格取得に対する費用負担等のバックアップ体制や職員の向上心がアップする環境の整備に努め、コロナ対策としてホーム内にオゾンエア空気清浄機を2台設置した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、施設外の研修は厳しい状況だったが職員である作業療法士の意見をもらったり、管理栄養士のメニュー表を参考にしている。働きながらの学びの機会が今後も必要とされていると感じた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は、大曲仙北地域密着型介護事業者連絡会の会長であり、同業者の交流、情報交換、勉強会等を行っている。また、日本認知症グループホーム協会に加盟しており、協会開催の全国大会に2018年には栃木県大会で発表をし、2019年は青森県の大会に参加する機会を通じ質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントを職員全員で共有すると共に、ご本人の話をよく聞き、不安や困っていることを把握しその気持ちに寄り添い、入居後は安心してゆっくりと生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の思いや入居に至る経緯を伺っている。入居者様の様子を毎月、交換ノートで伝えておりその都度、希望や要望を伺い返信しやすく話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人ひとりに役割があり、その役割を一緒に行い継続出来るよう働きかけている。生活していく上で、お互いに支え合い教え合いながら、喜怒哀楽を共にしていける関係づくりを心掛けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ、入居者様との関わりの機会を多く保てるよう支援している。外出・面会・電話等の援助を行い、日頃の情報を共有し入居者様を共に支えていけるように努めている。今年は、外出・外食・外泊が気軽に出来るよう祈っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人へ電話をされたり、お手紙や年賀状を送る支援をしている。ご家族様、ご友人との面会は、感染予防対策を万全にしてお話が出来る様に配慮した。	これまで行ってきたことができない現状を理解してくれる利用者もおりますが、その中でも継続できることを考えて支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2ユニット合同で、午前中にリハビリ体操を行っている。互いに声を掛け合える関わりを大切にしており、個々の関係性を把握しトラブルが回避できるよう配慮している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も悩み事や不安なことに対し電話での相談等を受けている。入院になってしまった場合は、今後の対応や居宅支援事業所への連絡等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや希望を伺い、出来るだけ叶えられるよう努めている。晩酌がしたい、自分のお菓子が欲しい、湯たんぽを入れて欲しい、帰宅願望がある方は、思いを傾聴し、ご家族様の了承を得て電話でお話をされたりしている。	普段の生活の中でさりげなく発した言葉も大切なものとして受け止め、情報を共有してアセスメントしています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から今までの生活歴を伺い、入居者様からは日常生活での会話や行動から情報を引き出し、得意なことや好きな物を把握するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、午前午後バイタルチェックを行い健康管理に努めている。体調の変化や行動の変化は個別記録で共有し出来ること、出来なくなってきたこと、出来ないことをアセスメントし、ケアプランに反映させるよう努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様と話し合い、ご家族様の意向も伺い、ケアプランに反映させている。カンファレンスの記録も変更し意向を記入出来るようにした。作業療法士と担当でカンファレンスを行い、意見を反映し現状に即したプランが作成できるよう努めた。	記録様式を変更したことでモニタリングに活かされています。担当職員が毎月モニタリングを行い、記録をもとにして専門職、他の職員の意見を参考にして介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙の変更を行い、職員の意見も取り入れケアプランと連動してチェックや気づきが記録出来るようにした。一人ひとりがより意識して記録している。気づきや変化がモニタリングしやすく、介護計画の見直しに活かされている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりは、今年度はコロナ渦で厳しい状況だったが、イベントがほとんど中止に追い込まれる中で、地域の秋祭りに参加できた。舞台上で歌声を披露された方、ポンポンやペンライトを手に応援隊は感染対策を万全に静かに応援された。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医等については、ご入居者様とご家族様からどうしたいかを伺っており、変化に合わせて当ホームの看護師のアドバイスを含め、かかりつけ医やかかりつけ薬局には相談し指示をいただき適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に確認して個々の希望に沿った支援が行われており、常勤看護師が在籍していることから適切に支援できるよう取り組んでいます。歯科受診についても希望に応じており、定期健診は協力歯科医で行っています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が入った為、毎日の変化や気になること等は、直ぐに相談し指示を仰いでいる。互いに報告し合い入居者様の体調を共有している。受診が必要な時は、看護師を中心に適切な対応ができる体制を整えている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	末期の胃がん・肺がんの入居者様がおり、かかりつけ医と緊急の対応ができる医療機関と連携して入退院がスムーズに対応することができた。今後は看護職員だけでなく介護職員も入退院の対応がスムーズにできる体制をつくっていききたい。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明をし同意をいただいている。急変時の対応や体調の変化時はご家族様と話し合い対応している。終末期に至ってもご本人様の意見を第一に尊重しかかりつけ医やご家族様と相談してできるケアを工夫し提供している。	医師の確保ができず、終末期の対応ができないことを説明していますが、家族も安心できる支援となるよう取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、急変時の対応や事故発生についての研修を行っている。普通救命講習も更新研修を行い職員全員が実践できる体制を整えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の避難訓練を行っており、通報訓練、避難誘導、消火器の指導訓練や発電機の使い方など職員全員が習得している。地域の消防団員にも参加を頂いている。市のシェイクアウト訓練にも毎回参加している。	訓練後の反省を今後活かすことができるよう取り組んでおり、水害時の対策も行っています。また、地元消防団の心強い協力体制ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりが違う人格であり、個々に合わせた声掛けや対応を心掛けている。些細なことに対しても「ありがとう」と言葉にしている。個人情報やプライバシーの保護についての研修を行い、職員自身の意識の確認をしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、特に声かけの仕方や言葉遣いには配慮しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いを尊重し、その日の体調や表情などを観察し声掛けをしている。些細な変化や行動にも声を掛け話がしやすい環境づくりを心掛けている。おやつや飲み物は毎日選んでいただき、体操やレクリエーションも本人本位で行っている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて体調を伺い無理のない程度にメリハリのある楽しい1日が過ごせるよう支援している。やりたいことや希望はその都度聞いて思いに添えるように努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪や髪染めと毎日の髭剃りや耳かき、爪切りの支援も必要に応じて行っている。入浴時には、自分で着たい洋服を準備し着ていただいている。イベントや外出時は、お化粧をしたい方には支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬な食材を活かした料理や行事食など職員と共に、調理や盛り付けなど見た目からも楽しめるよう工夫し、配膳や下膳、洗い物も入居者様達が自ら積極的に行っている。誕生日には食べたい物を提供しカップラーメンを希望される方もいる。	利用者の力を大いに引き出す機会でもあり、調理の過程で利用者が積極的に参加しています。配膳しながら他の利用者に声をかけている様子もみられました。干し柿づくり等も皆で一緒に行っています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの希望や体調に合わせた食事形態で提供している。お粥、刻み、トロミ材の使用その方それぞれに食べやすく工夫している。管理栄養士のメニューを参考に栄養バランスも考えている。水分量は体重×30mlを目安に摂取されている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの習慣が身に付いている方が多い、一人で上手に出来ない方には自分でケアした後に介助を行っている。義歯の方は毎日義歯洗浄剤を使用し口腔内の清潔保持を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのきもちや能力に添った支援を心掛けている。時間帯や回数などの排泄パターンを毎日の記録によって職員皆が把握しプライバシーに配慮した声掛けを行っている。	個々のパターンに応じてトイレでの排泄を支援しています。布パンツのみの方はおりませんが、排泄用品の費用負担に配慮しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、午前と午後の体操で体を動かしている。料理や飲み物にオリゴ糖を入れたり、水分量の調整や入浴時にお腹のマッサージをしたりし排便を促している。必要に応じては、かかりつけ医より下剤を処方していただいている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調のチェックを毎日行い、季節によって一人ひとりに合わせた温度設定や様々な香りの入浴剤などゆっくりと入浴を楽しめるよう工夫している。冬至の時はゆず湯に毎年入られている。	時間帯や回数等、利用者それぞれの希望に柔軟に対応し、気持ち良く入浴していただけるように支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や室内の温度調節をし好きな時に居室でゆっくりできるように管理している。季節毎に寝具を調整し冬季は、個別に電気毛布や湯たんぽを使用し快適な眠りにつけるよう工夫している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴と内服薬は職員それぞれが目的と副作用を確認できている。体調不良により新たに処方薬がある場合は、職員皆が申し送りノートや通院記録で把握し内服によっての体調の変化はかかりつけ医に報告している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりに、ただ作業をお願いするのではなく、その方は何が本当にやりたいのか、楽しんで行っているのかを観察し把握していきたい。ストレスにならないように見極めて依頼し「ありがとう」の言葉をいつも伝えていきたい。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は、コロナ渦により外出の支援は限られたものであった。7月ラベンダー園でお花を観賞した。外の空気に触れながら息抜きが出来て良かった。10月地域の秋祭りへ参加し作品の展覧や発表の見学をした。春になったら短時間でも外の空気を吸って、少しでもストレスの緩和に努めたい。	感染防止のために外出の機会が少なかったものの、喜んでいただけるよう工夫しながら支援しています。畑やプランターの野菜や花のお世話をすることで、遠出はしなくても戸外で過ごす時間をつくっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様本人が現金や通帳を所持している方がいる。買い物の希望がある時は、施設側で購入しレシートをお渡しし支払いをされている。手元に現金があることで安心される方もいるが、財布の置き場所を忘れ一緒に探すことが度々ある。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方が2名おられる。1名の方はしっかり自立されているので、自宅や友人に良く電話をかけている。もう1名の方は、兄弟や友人からたまに電話があるが、出ることも発語も厳しく職員が間に入り伝える支援をしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除に消毒、季節に合わせ空調管理を行っている。共用の空間には四季折々の装飾を飾ったり、職員の自宅に咲いたお花を生けていただいたり、年間のならわしの行事は重んじて行っている。	広い空間に椅子やソファを置いて自由に過ごせる居場所を確保しています。訪問当日は雛段が飾られており、月見団子をお供えしたり等々、季節を思い起こすことができる対応をし、ホーム便りで家族にも報告しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子やテーブルを置き、居間には誰が座っても良いようにソファがたくさん設置されている。いつでも好きな時にゆっくりとくつろげる様な工夫をしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ、冷蔵庫、使い慣れたタンスや仏壇も持って来られている。お部屋にご家族様と一緒に撮った写真を飾ったり、タンスやテレビの配置を変えたりし自身で工夫されたり、職員も一緒に居心地良く過ごせるように工夫している。	その人毎の生活環境がつくられており、安心して過ごすことができる居室となっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、手すりが設置されており安心して歩行がされている。車椅子を自走される方や歩行器を使用される方もおりホーム内は通路に物を置かないようにしている。、トイレや洗面所も分かりやすく自分で行けるよう貼り紙をしている。		